

会 議 名 称	整 理 番 号	179
足立区地域保健福祉推進協議会 子育て支援専門部会（平成 21 年度 2 回）	作 成 年 月 日	平成 2 1 年 11 月 24 日
	作 成 者	副参事（子ども施策推進）子 ども施策推進担当
	所 属 ・ 氏 名	谷 口
開 催 日 時 平成 2 1 年 7 月 2 日（木） 午後 1 0 時～	配 付 先 子育て支援専門部会員（17 名）	
開 催 場 所 1 3 階大会議室 A		
議 題 あだち次世代育成支援行動計画の 2 0 年度実績について ほか	配付資料 次第 1 部 資料 1 部	
出 席 者（敬称略）（計 26 名） （部 会 員）柴崎正行、中田貢弘、石鍋一男、奥田隆博、入野宇市、日比谷松夫、佐野宏明、倉橋俊至 （特別部会員）杉本新、竹内陽子、大野雅宏、石鍋てるみ、直江なおみ、掛川秀子 （事務局）副参事（子ども施策推進担当） 下河邊 純子 （関連部署）子育て支援課長 村岡徳司 住区推進課長 永田素子 男女共同参画推進課 中嶋篤子 保育課長 秋山稔 こども家庭支援センター 和田順二 健康推進課長 山下公平 青少年センタ ー所長 五十嵐隆 教育政策課長 石居聡 副参事（キッズぱれっと担当）山杉 正治 子ども施策推進担当 谷口久子 青少年センター 村上長彦		
議事内容（議事要点・決定事項・調査事項・問題点・特記事項・次回予定・その他）		
報告事項		
1 あだち次世代育成支援行動計画の平成 2 0 年度実績について 利用件数で大きな伸びが事業の報告（子育てサロン・子育てホームサポート・虐待対応事業） 平成 1 6 年度から 2 0 年度までの全事業に対して総合評価を行った。		
2 平成 2 1 年度認可保育園待機児童の状況および緊急待機児童対策の進捗状況について 21 年度認可保育園の待機児童は 418 人。2 0 年度は 205 人（213 人の増） <対応策> 新田地区 認証保育所 A 型 2 2 年 3 月開設予定、（仮称）第二新田保育園（認可）2 2 年 4 月開設 予定 千住地区 都認証保育所 A 型（2 か所） 2 1 年 1 1 月開設予定、2 2 年 4 月開設予定 綾瀬地区 東綾瀬きらきら保育園 21.10.1 開設予定 西新井地区 区認定保育室が東京都認証保育所（B）に移行予定		
3 学童保育室の待機児童の現状について 21.4/1 待機児童は 82 人。21 年度は民間学童保育室を 1 室増設した。		
4 こんにちは赤ちゃん訪問事業の実績報告について 平成 2 0 年度訪問実績は 3,274 件。昨年度比 54%増。		
協議事項		
グループ討議 2 つのグループに分かれて、遊び場の確保、父親の育児参加についてのディスカッションを行った。 議事録については別添のとおり		

（下河邊子ども施策推進担当副参事）

皆様おはようございます。定刻になりましたので、始めさせていただきます。本日はお忙しい中、今日もあいにくのお天気ですけれども、足立区地域保健福祉推進協議会の子育て支援専門部会にご参加をいただきましてありがとうございます。本日、進行を務めさせていただきます、子ども家庭部副参事の下河邊でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは始めに子育て支援専門部会の柴崎会長よりご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

（柴崎会長）

みなさんおはようございます。世間では選挙に対していろいろな動きがあるようですけれども、子どもの政策はしっかりして欲しいなという思いでいっぱいです。

次世代育成支援の行動計画の策定に関しましては、前回、グループディスカッションをしていただきましたけれども、たいへん活発なご意見を頂きまして、ありがとうございました。今回は更にその議論を深めて、足立区の子どもたちの支援を、よりよい方向に考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

（下河邊子ども施策推進担当副参事）

ありがとうございました。次に、足立区こども家庭部長の日比谷よりひとこと挨拶を申し上げます。

（日比谷委員）

おはようございます。

後ほど、保育課長から詳しい説明があるかと思いますが、足立区でも保育園の待機児が去年は 205 人でしたが、今年は 418 人ということで倍増している状況です。昨日も、役所内の関係各部が集まりまして、待機児解消をどうしたらいいのか議論をしたところですが、その中で「保育ママ」家庭福祉員という制度があります。0 歳～2 歳の子どもを家庭で保育するものですが、現在、94 名の方がいらっしゃいます。先日公募しましたところ、16 名の方が研修を受けています。研修が終わりますと 10 月から開業できるという状況です。この保育ママにつきましては、7 月～8 月にかけて第 2 次募集があります。身近な方で保育ママをやりたいという方がいらっしゃいましたら、お話しをしていただければと思います。今日はよろしくお願いいたします。

（下河邊子ども施策推進担当副参事）

それでは、進めてまいります。議事に入る前に、資料の確認をさせていただきます。事前に送付いたしました資料を本日お持ちいただけていますでしょうか。本日、お手元に配布しました資料は、「本日の次第」、「事前質問票」、「パークエンジェル募集のチラシ」、「夏休みカレンダー」、「グループメンバー表」、「討議の参考資料」、「足立区公園おでかけマップ」、「子どもとのんびりできる公園の地図」、「骨子イメージ」、「専門部会名簿」以上、10 点になっております。

第 2 期の次世代支援行動計画策定のためのニーズ調査を行いました。お世話になっております、日本能率協会総合研究所の研究員の中村さんと、田中さんにおいでいただいておりますので、ご紹介させていただきます。

（中村研究員）

おはようございます。株式会社日本能率協会総合研究所、中村と申します。よろしくお願いいたします。

す。

(中村研究員)

同じく、田中です。よろしくお願いします。

(下河邊子ども施策推進担当副参事)

よろしくお願いいたします。それでは、次第に従いまして進めてまいりたいと思います。これより、柴崎会長に議長として議事の進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(柴崎会長)

それでは、座ったままで失礼いたします。では、平成21年度の第2回の足立区地域保健福祉推進協議会の子育て専門部会を開会させていただきます。

まず、議事の進行ですが、本日は報告案件が4件あります。質疑応答につきましては、報告事項がすべて終了した後に、一括して行っていただきたいと思います。なお、本日は11時から、ふたつのグループに分かれて、グループディスカッションをしたいと思いますので、できるだけ速やかに進めていきたいと思っております。

それでは、議事に入ります。案件1の「あだち次世代育成支援行動計画の平成20年度実績について」副参事から説明してください。よろしくお願いいたします。

(下河邊子ども施策推進担当副参事)

それでは、説明をさせていただきます。資料の1をご覧ください。

「あだち次世代育成支援行動計画の平成20年度実績について」です。あだち次世代育成支援では、計画期間を平成16年度～21年度までの6年間とし、16年度～18年度までを前期、19年度～21年度までを後期として掲げています。20年度の事業実績を集約しましたので、概要を報告します。また、平成22年度からの第2期計画策定に伴いまして、16年度～20年度までの総合評価を行っています。詳しくは事前にお配りしております「計画事業実績一覧表」を、後ほどご覧ください。

それでは1番の「利用者、件数等において、前年度の比較で大きな伸びがあった事業及び内容」について報告します。3事業ほど紹介させていただきます。

まず「子育てサロン」です。19年度については8か所、利用者84,929人の利用がありました。20年度については10か所で、利用者が94,709人ということで、乳幼児を持つ親子が気軽に集える施設として、利用者は多く、昨年度から約1万人増加しています。20年4月には、関原と新田の2か所を開設しました。平成23年度までには、15か所の開設を予定しています。なお、21年の5月には梅島サロンを開設しました。

2つ目の事業は「子育てホームサポート事業」です。利用件数は、19年度20,656件、20年度25,104件、ということで約4,000人増加しています。事業開始当初は1万人弱の利用でしたので、実績としては2倍以上になっています。

3つ目の事業は「虐待対応事業」です。19年度の相談件数239件に対しまして、20年度は270件ということで昨年度より30件以上増加をしています。要保護事業への早期対応と、専門機関による連携強化を図り、迅速に対応しています。

2番目は、総合評価の内容です。評価の方法につきましては、A・B・Cという3段階評価を実施しました。一部、B、Cがありますが、ほとんどがA評価となっており、概ね良い評価ということになっています。主な重点事業ということでは記載のとおりですので、後ほどお読みください。

公表についてですが、この行動計画に基づく実施状況については、年1回公表することとされております。この20年度の実績について、こちらの子育て支援専門部会の審議を得て公表することとなっております。

います。ご了承いただきまして、区のホームページなどに公表をまいります。以上です。

(柴崎会長)

ありがとうございました。それでは、続きまして報告2です。

「平成21年度認可保育園待機児童の状況及び緊急待機児の対策の進捗状況について」について、秋山保育課長、お願いいたします。

(秋山保育課長)

おはようございます。

「平成21年度認可保育園待機児童の状況及び緊急待機児の対策の進捗状況について」報告します。資料の2をご覧ください。本年4月の待機児童数は418名です。昨年度が205名でしたので、213名の増加になります。特に0歳～3歳児の待機児童が増加しています。待機児童が増加した大きな理由として、昨年からの景気の悪化が、もともとあった潜在的な需要を呼び起こしたのではないかと考えています。特に待機児童のうち、求職中という理由の申請が昨年度から倍増しているということもありまして、母親の就労希望が増加していると推測しています。

次に待機児童が急増したことを受けて、本年3月に緊急待機児対策をまとめ、現在、整備を進めています。

その進捗状況について説明します。

まずは、新田地区ですが、東京都認証保育所と認可保育園、それぞれ1か所の整備を進めています。東京都認証保育所は、新田3丁目32番で整備を進めています。今月中に運営事業者を募集し、来年3月の開設を予定しています。

それから仮称ですが、「第二新田保育園」。こちらは認可保育園と同じです。新田1丁目14番都営新田アパートの1階を利用して建設整備を進めています。こちらの都住ですが、耐震補強工事を予定しているということがあり、保育施設部分との工事スケジュールについて調整しています。すでに保育施設部分の設計を現在実施しています。22年4月の開設に向けて今後とも関係機関と整備を進めてまいります。保育園児数ですが、22年度は0～2歳児29名、23年度は0～3歳児42名を予定しております。また、この保育施設は園庭が狭いという理由もありまして、0～3歳児の専用の保育園ということで予定しております。4歳に進級した時点での受け入れは、この地域にある、ほかの認可保育園3施設で可能となるよう、調整をしております。なお、8月に運営事業者の募集を実施します。

次に、千住地区ですが、東京都の認証保育所の整備を2か所で進めています。1か所は千住宮元町31番で、すでに運営事業者が決定しまして、保育施設の建設に向けて、今現在、建築確認の申請を行っています。開設は11月、定員は30名を予定しています。

もう1か所は千住旭町52番です。今月に運営事業者の募集を行い、22年4月開設、保育定員は30名を予定しています。

次に綾瀬地区です。仮称「東綾瀬きらきら保育園」を東綾瀬2丁目17番で整備を進めています。この保育園はUR東綾瀬団地の建て替えに合わせて、民設民営により誘致したものです。当初22年4月開設ということで予定していましたが、半年間前倒しし、本年10月1日に開設をします。これに合わせて7月16日から園児募集を開始します。21年10月の募集人員は46名、23年4月の最終定員は100名を予定しています。7月10日号のあだち広報、区のホームページで園児募集を広報します。

それから西新井地区ですが、区の認定保育室「バンビ保育室」が東京都の認証保育所への移行に向けて、今現在、保育室を建設中です。開設は21年10月、定員は現在の12名から24名に増員を予定しています。私からは以上です。

(柴崎会長)

ありがとうございました。続きまして、報告事項の3になります。

「学童保育室の待機児童の現況について」永田住区推進課長、よろしくお願いいたします。

(永田住区推進課長)

おはようございます。私からは「学童保育室の待機児童の現況について」報告します。資料3です。平成21年度については、昨年度待機児童が30名近く出ました渚江第一小学校近隣地区に対して、民間学童保育室を1室増設しました。その他、入室児童数の弾力化の実施、及び待機児対策として、児童館を特例利用できる事業を始めたところです。

1の「入室申請の状況」にあるように、対象児童数については、ほぼ、横ばい状態です。学童保育の申請数については、昨年より若干減少していますが、ほぼ横ばい状態。申請率は昨年並みとなりました。その結果、4月1日現在の待機児童は児童館の特例利用を除いた82人です。

2の「待機児童の状況」です。表にあるように、毎年、学童保育室を増設していて、21年度は学童保育室96、総定員数3,650、入室児童数3,646、特例事業利用数91、待機児童数82、待機児率2.12%となっています。

(2)の待機児童等の多い学童保育室ですが、待機児童が20人いるところが、1か所、鹿浜住区の学童保育室、待機児童10人以上のところは2か所あり、つくしんぼ学童保育室、加賀の学童保育室です。待機児童が多い地域は鹿浜地区となっています。

今後の方針ですが、今後、待機児解消対策については、待機児解消必要地区への増設等の検討を図るとともに、定数の見直し及び弾力化、その他児童館特例事業の検証等含め、様々な既存施設の活用を図りながら、待機児解消に向け推進していきたいと思います。以上です。

(柴崎会長)

ありがとうございました。続いて、報告事項の4になります。「こんにちは赤ちゃん訪問事業の実績報告について」山下健康推進課長、よろしくお願いいたします。

(山下健康推進課長)

おはようございます。「こんにちは赤ちゃん訪問事業」の実績について報告します。資料4をご覧ください。「こんにちは赤ちゃん訪問事業」は平成19年度から開始し丸2年が経過しています。今年度からは、「乳児家庭全戸訪問事業」として児童福祉法に位置づけられるように、法改正が行われています。また、21年3月には「乳児家庭全戸訪問事業ガイドライン」が国において策定されています。

20年度の実績ですが、資料にあるように訪問実績件数は3,274件と、19年と比較すれば54%増と大幅に伸びているのがわかります。また、出生通知票の届出件数の方も昨年と比べて600件ほど増え、4,029件です。訪問実績件数は20年度中のものですので、この後、訪問完了したものもあります。

訪問指導員の状況ですが、保健師、あるいは助産師の有資格者、現在27名登録しています。全戸訪問を目指しているところですが、訪問できなかったご家庭については、地区担当の保健師が後ほど訪問し、あるいは3~4ヶ月の検診期に相談をお受けするような体制により、全件例把握に努めている状況です。

訪問時の対応ですが、訪問時に育児相談、母乳の会等、様々な事業を案内し、孤立せずに、楽しく子育てができるような支援をしています。

また、育児不安、あるいは親のメンタルな面等、あるいは子どもの病気等、継続的な支援が必要な場合もあるので、そういった場合は、地区担当の保健師が訪問指導員から引き継ぎ、家庭訪問、必要に応

じて専門相談、医療機関等につなげています。

今後の事業の拡充ですが、出生通知票は、母子の状況を最初に把握する資料であると同時に、訪問時期の調整を行う連絡票という性質があります。今後も本制度の周知を図り、チラシ作成、あるいは、医療機関等にあつての周知等、ご協力お願いしながら出生通知の提出を呼びかけていきます。

また、訪問指導員の能力向上として、定期的な研修会や事例検討会等、実施しているところです。私からは以上です。

(柴崎会長)

ありがとうございました。以上で4点報告事項は終わりました。ここで質疑応答に入らせていただきます。

最初に、直江議員から事前に質問を頂いておりますので、その回答を、担当の課長さんから報告していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(秋山保育課長)

頂いている質問のうち、 と についてお答えします。まず の質問、夜間保育の後期の目標値についてです。「21年度目標値なしということになっているのは、どういう意味ですか？」という質問です。

現在、夜10時まで保育を実施している保育施設は区内に1か所あります。現行の足立区の保育計画は22年度～25年度の間で、更に1か所整備するという計画になっていて、今後、次世代育成の後期目標とは別に、足立区の保育計画の中で、更にもう1か所整備するという計画です。そういった関係があつて、この項目には目標なしとなっています。待機児童の増加に加え、保護者の勤務形態の多様化が進んでいるということもあるので、夜間保育や、休日保育など、こういったサービスも、計画的に充実していきたいと考えています。

の待機児対策の関係ですが、「他の区では6月補正で拡充するというような新聞の報道があつた」ということですが、先ほど、私の方から報告しました緊急待機児対策ですが、今年度については待機児童が急増している4地区に対して対策を行っているところです。この内容については、今年の3月に作成したもので、この対策に必要な経費が21年度の当初予算に含まれていないという状況です。3月に作成したといことで当初予算の要求に間に合わなかったため、今年度の補正予算で対応することを考えています。

また、さきほど部長からも話がありましたが、緊急待機児対策だけではなくて、22年度以降も更に対策が必要ですので、その内容について、検討を行っているところです。

(柴崎会長)

引き続き と についてお願いいたします。

(永田住区推進課長)

についてお答えします。「学童保育は、小学1年生は入りやすいが、小2、小3は難しい」ということと「学年別の待機状況はどうなのか」ということについて説明します。

学童保育の入室については、足立区では「足立区立学童保育室入室承認基準指数票」というのを設けており、それにより審査しています。その中に、学年の承認順位という項目があり、1年生が優先ということになっています。その理由は、小学校1年生のお子さんは保育園や幼稚園などから小学校にあがって環境が変わり、本人にとっても保護者にとっても大変不安が大きいと思われるので、社会性や生活能力等からも、学童保育室の必要性が高いということを判断しています。そのため、小学校1年生が入室しやすくなっています。ただ、就労状況等による指数の要件が前提にということになります。

各学年の待機児童数でございますが、1年生が5名、2年生が23名、3年生が54名の合計82名ということです。

の「71人以上の大規模学童が、該当するところはあるのか」というご質問ですが、足立区については71人以上の大規模学童はありませんので、該当はありません。

（山下健康推進課長）

の「訪問指導員さんは、周辺に住んでいる人に来てもらった方が、訪問後も継続的な関わりを持てる体制になると思いますが」という質問について回答します。こんにちは赤ちゃん訪問事業の訪問指導員さんですが、自宅が区外の方もいらっしゃいます。あと、訪問指導員による訪問は原則初回の1回ということで、その後の継続的なフォローについては5ヶ所あり、保健総合センターの地区担当の保健師が受け持つ体制となっています。地区担当の保健師は母子事業以外にも地域の担当ということで、地域の状況把握をしているので、継続的な関わりという点でも対応力があるかと思います。

このほか、3～4ヶ月検診、あるいは保健総合センターの母子事業等で個別の相談等、継続的なかわりを持てるような体制となっています。もし何か継続的な相談が必要な家庭があった場合には、まず保健総合センターの保健師の方にご連絡をいただき、仮に地区担当の保健師が不在の場合でも、他の保健師が対応しますので、その後地区担当が引き継ぐような体制になっているところです。

訪問指導員の方の対応については、報告でもあったように、事例検討会や研修会等でつねに情報共有をしており、保健総合センターの保健師の方できちんと引き継いで対応できるような体制をとっているため、その点、ご理解いただければと思います。

（柴崎会長）

ありがとうございました。直江委員の方から事前に寄せられた質問について、今、4つの回答がありましたけれども、いかがでしょうか。

（直江委員）

どうもありがとうございました。4番目の、こんにちは赤ちゃん訪問の方の継続的な関わりについてなんですけれども、虐待の心配があるなどの気になる家庭の継続的な体制がちゃんと取れているっていうのは、今のご説明でわかりましたが、私がここで書いた継続的な関わりっていうのは、そういう気になる家庭っていうことだけではなくて、せっかく普通の家庭も対象に全戸訪問するので、訪問者の人と2度と会うことはないというのではなく、例えば、商店街で会うとか、スーパーで会うとか、特別な相談をすとかでなくても、地域の中で気軽にこんにちはと言えるような感じのつながりがあるといいなと思います。地域に知り合いがいらないようなお母さんが多い中で、こういう全戸訪問の場を通して、こんにちはと言える相手が一人でもこの中でできることはいいことなのではと思います。

板橋区とか横浜市などでは、気になる家庭の対応だけの役割じゃなくて、全戸訪問を通して、地域のつながり作りっていう面でも推進していращやるので、そういった面もこれから検討課題に入れていただけると、保護者としてはありがたいかなと思いました。

（柴崎会長）

ありがとうございました。「こんにちは赤ちゃん訪問」と「子育てサロン」なんかがうまくつながるといいなと、今のお話を聞いて思いました。そういう連携っていうのはどうなのでしょう。

（山下健康推進課長）

「こんにちは赤ちゃん事業」は、区の職員がご家庭を訪問するという非常に貴重な機会でもあるので、衛生部の事業だけではなく、様々な子育て支援に関しての情報等をお伝えするように努めています。3～4ヶ月検診の場もありますので、両方の機会を通じて、子ども家庭部との連携等努めているような状

況です。

(柴崎会長)

ありがとうございました。それでは、これで報告案件につきましての質問は終わりにさせていただきます。それでは、他の資料について事務局から説明の方、よろしくお願いいたします。

(下河辺子ども施策推進担当副参事)

それでは、事前にお配りしています「第2期あだち次世代育成支援行動計画施策の方向性及び主な取り組み内容について(素案)」をご覧ください。現在、庁内の検討会において、施策群、取り組み内容の文章化を進めています。まだまだ作成途中で、閉じてあるA4の「あだち次世代育成支援行動計画施策の方向性及び主な取り組み内容」こちらになります。やはりまだ手直しが必要な状況ですので、委員のみなさまのご意見をぜひ頂戴したいと思っております。

本来でしたら、すべて読み上げをさせていただくところですが、今日は時間の都合もありますので、施策群と中柱について読み上げをさせていただきます。

それでは、表紙をお開きいただきまして、
まず、子ども支援の ①「子ども心身の健やかな育ちを支援します」○主な取り組み内容…「早寝早起き朝ごはんの習慣が身につくよう応援します」「運動や遊びを通して生活リズムを身につけましょう。」「子どもの権利を子どもと大人が共有できる基盤をつくります」

②「発達支援の必要な子どもの健やかな成長を支援します」

○主な取り組み内容…「みんないっしょに育ち合いましょう」「発育・発達を支援します」

③「子どもの確かな学力の定着と向上を図ります」○主な取り組み内容…「基礎・基本学力の定着を目指します」「学びの喜びを教え、学習意欲の向上を図ります」「学校経営の改善と教員の力量強化を図ります」「教育活動の連続性を推進します」「子どもの健康な体づくりを進めます」

④「遊びや体験活動の場や機会を拡充します」○主な取り組み内容…「地域の少年団体での活動を支援し、子どもの遊びや体験活動を充実します」「スポーツ活動や文化体験の機会を充実し、心身の成長を支えます」「生活体験や環境問題への理解を深める機会を充実します」「文化体験の機会を充実します」「公共施設における子ども向け事業やボランティア体験などの機会を充実します」

⑤「子どもが健やかに成長できるよう地域とともに支援します」○主な取り組み内容…「青少年のよりよい地域活動のために団体活動を支援し、交流の場を整備します」「スポーツ活動やボランティア活動などを活性化するための環境づくりを推進します」「青少年が育つ地域環境を良くするために、地域の力を合わせて取り組みます」「青少年の非行問題に地域とともに取り組みます」

⑥「青少年の自立を応援します」○主な取り組み内容…「早い時期から、勤労観・職業観を醸成します」「青少年が意欲を持って就業し、継続して働くことを支援します」「登校及び適切な移行を支援します」「思春期の問題を抱える中高生や親を支援します」ここまでが子ども支援です。

次は子育て支援の ①になります…「育児の不安について気軽に相談できる機会を充実します」○主な取り組み内容…「どんな子育て相談にも応じます」「子育て情報の提供に努めます」

②「母親と乳幼児の健やかな成長を支援します」○主な取り組み内容…「健康で安心して出産ができるよう応援します」「健康診査や相談・教室等を行い、乳幼児の健やかな成長を支援します」「乳幼児の健やかな成長を地域全体で見守ります」

③「仲間と一緒に楽しく子育てできる機会を提供します」○主な取り組み内容…「のびのび子育てできる場を提供します」「子育てを応援する仲間を増やします」「子育てについて学びあいまし

よう」

の４・・・「誰でも必要な時に利用できる子育てサービスを充実します」○主な取り組み内容・・・「家庭で一時保育をします」「保育施設で一時保育をします」「子育ての経済的負担を軽減します」

の５・・・「仕事と子育ての両立を支援します」○主な取り組み内容・・・「保育体制の整備を推進します」「多様な保育サービスを提供します」「学童保育の充実を図ります」「仕事と家庭の両立を支援します」「父親の育児参加を支援します」

の６・・・「家庭教育を支援します」○主な取り組み内容・・・「家族のきずなを強くするための取り組みを引き続き進めます」「家庭教育学級などの開催を通して家庭と家庭教育を支えます」「ＰＴＡ活動を支援し家庭教育を支えます

の７・・・「養育困難家庭の自立を支援し、子どもを虐待から守ります」○主な取り組み内容・・・「育児不安を解消し、虐待を予防します」「子ども家庭支援センターが中核となって児童虐待に対応します」

の８・・・「ひとり親家庭の自立を応援します」○主な取り組み内容・・・「ひとり親家庭の相談に応じます」「生活の安定と自立の促進を支援します」「就労を支援します」

の９・・・「子育てにやさしい安心なまちをつくります」○主な取り組み内容・・・「安心して子育てのできる住宅環境をつくります」「子どもを犯罪や事故から守ります」「子ども連れて外出しやすい環境をつくります」「子どものケガや病気に対応します」以上です。

中柱をお読みするだけでしたので、どこまでお伝えできたかということは、難しいところかと思いますが、すけれども、こちらをご覧いただきまして、後ほどでかまいませんので、ぜひご意見を頂戴できればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

もう一枚、Ａ３の骨子イメージということで、こちらをまとめたものになります。計画としては、施策の方向と主な取り組み内容と、事業についてこの後に続くというような、そういう形式になりますので、ご了承いただきたいと思います。

それでは、続きまして前回、グループディスカッションで活発なご意見を頂戴しましたご意見を一表にまとめています。事前配布の「子育て支援専門部会で頂いたご意見」という一枚がありますが、こちらを見ながらお話をさせていただきます。たくさんのご意見いただきましたが、６つほどピックアップさせていただきました。

まず１番目です。情報の提供についてということで、「こどもが自分でアクセスできるような仕組みがあると良い」というようなご意見をいただきました。対策としましては、今日お配りしました広報の原稿「夏休みカレンダー」をご覧ください。いつどこで何をやっているのか、というようなことが把握できるようなカレンダーです。足立区のホームページは大変よくできているとは思っていますが、このようなページの作りこみをするような工夫で進められたらいいというふうに考えています。こちらは７月１０日号の原稿ですので、まもなく区内にお住まいの皆様にはお手元に届くかと思っています。このような形で進めてまいりたいと考えています。

２番目の、「豊かな体験遊びの保証」ということですが、Ａグループの方で「世田谷区にあるような公園、プレーパークのようなものがあるといい」というようなご意見をいただきました。足立区にはなかなかプレーパークとはいかないまでも、豊かな体験という視点から、土木部が公園整備計画というのを２２年度から２３年度で計画をしていくということですので、こちらの方に要望をあげて協議していければと思っています。

３番目「スポーツ活動の支援をもっと前面に出せないか」というご意見をいただきました。こちらは、生涯スポーツ振興計画の中でスポーツ教室の充実については掲げています。ただ、皆様になかなか伝わ

りにくいとい状況がありますので、広報を工夫していきたいと思います。

あとは、先ほど読み上げをしました、子ども支援の「遊びや体験活動の場や機会を拡充します」それから「子どもが健やかに成長できるように地域とともに支援します」という中で、スポーツの項目を、現時点で反映をさせていただいております。

4番目ですけれども、「命の大切さ、子育ての大切さを伝えたい」ということでご意見を頂きました。命の大切さについては、の1の「子どもの心身の健やかな育ちを支援します」の「子どもの権利を子どもと大人が共有できる基盤をつくります」という、この中柱の中に「命」という表現をこれからしていきたいと考えています。

それから、「子育ての大切さ」については、子育て支援のの3になりますけれども、「子育てについて学びあいましょう」の中に位置づけをし、子育て講座の中で伝えていくというようなことで位置づけをできればと思っています。

5番目、「安全、安心」についてです。なかなか戸外で遊ばせたくても、今いろんな状況がありますので、外に出せる状況、環境ではないというご意見をいただきました。今日、席上配布で「パークエンジェルの大募集」というチラシを参考にお配りしました。「パークエンジェル」というのは、普段、公園を使っている子育て中のお母さんを中心にしたボランティアということで、こちらを養成する事業がありますので、こちらの方々にご活躍をいただきながら、安全、安心についても計画の中で位置づけることができるか、こちらは協議しながらですけれども、このようなことを考えています。

6番目です。A、Bグループ共に出ました、「父親の育児参加の施策の強化と親父の会の充実」についてです。こちらについては、の5の「仕事と子育ての両立を支援します」というところに「父親の育児参加を支援します」という中柱を現時点では立てております。

親父の会の強化については、父親の育児参加を強化させていくということにつながれたらと考えています。私からは以上です。

前回いただいたご意見の中で、「体験・遊び・スポーツ」というような共通点がありましたので、今日は「遊び場の確保」と、それと両グループからいただきました「父親の育児参加」について、グループディスカッションをしていただく際のテーマとして掲げさせていただきたいと考えています。谷口の方より現在の足立区の公園の説明と、父親の育児参加については他の自治体の参考例などお話をさせていただきます。

（谷口子ども施策推進担当係長）

私からは、本日お配りした資料「父親の子育てについて」「じゃぶじゃぶ池案内」「足立区公園おでかけマップ」でご説明させていただきます。討議参考資料の「父親の子育てについて」という資料をご覧ください。前回、ディスカッションしていただいた中で、父親の子育ての施策についてのご意見が多くありました。現在、区が実施している事業について説明をします。

左側に書いてあるのが、現在実施している事業です。一番上の「父親ハンドブックによる周知」ですが、これは母子手帳を発行する時に同時に父親ハンドブックをお配りしているという事業です。

次は、「両親学級」です。保健総合センターで実施しており、参加人数もかなり多くなっています。

次の「父子わくわく体操・交流会」ですが、これは、子育て支援課と男女共同参画推進課が共同で進めている3年目の事業です。今年は7月12日に開催する予定ですが、お父さんと子どもだけが参加する事業で人気があります。年2回やっていますが、お父さんたちが子どもたちと遊ぶのが楽しいということで、またやってくださいというお声を聞きます。

次は、「男性のための料理教室」。これは男女共同参画推進課の方で実施しています。

それから、「おやじの会」これは教育委員会で実施しております。次に、「ワークライフバランス推進企業認定制度」。これは、企業の育児休業や残業を減らす制度などに対する、区の支援事業としてスタートしたものです。足立区では3事業者が認定されました。

次の、検討事業と書いてあるものですが、他の自治体の例を参考に考えたものですが、「父親大学・講座の開催」「標語募集による育児参加の機運を高める」「ワークショップの開催」「お父さんの焼き芋会の開催」。また「幼稚園・保育園での父親講座」なども考えられるかと思います。まだ十分に検討はしてはいませんが、本日、提案がありましたら、ぜひお願いしたいと思います。

次は足立区の公園について簡単にご説明いたします。足立区の公園は316ヶ所あります。23区中、第5位という数の多さです。また面積では200万㎡で、23区で一番面積が多いという環境です。お配りした、表面が「子どもとのんびりできる公園」裏面が「じゃぶじゃぶ池案内図」という資料がありますけど、これは子育てガイドブックの中に入っているものです。小さなお子様がいらっしゃる方はこういうものを見てご利用しているのではないかと思います。特にじゃぶじゃぶ池はとても人気です。

また、「足立区公園おでかけマップ」を見ていただきますと、歴史のある公園・交通公園とか、生き物に出会える公園など、いくつかの特色のある公園の紹介をしています。お子さんのいる家庭の方は、交通公園や生物園とかこのあたりを利用されているかと思います。足立区には多くの公園がありますけども、遊び場の確保について、環境的に不足している部分や子どもに経験させたい遊びについて、ご議論いただければと。以上でございます。

(柴崎会長)

ありがとうございました。何か質問ございますか。

(直江委員)

このおでかけマップは初めて見ましたが、すごく魅力的だなと思いました。いつごろ作られてどういう形で配布していらっしゃるのですか。

(谷口子ども施策推進担当係長)

これは公園課の方で平成14年に作っているのですが、少し古い資料で、手直しがしてあります。新しいものを作るということは聞いていますけども、まだ在庫がありますので、いただいてきたところです。図書館や、生涯学習センターとかそういうところにおいてあると思いますので、ご覧いただきたいと思います。

(柴崎会長)

他に質問はよろしいですか。ありがとうございました。それではこれで、前半の部分は終わりにさせていただきます。グループディスカッションの方に移りたいと思います。

(下河辺子ども施策推進担当副参事)

グループディスカッションにつきましては、メンバー表のとりのグループ分けさせていただきたいと思っています。終了後にグループごとの意見を5分程度で報告していただきたいと思いますので、報告いただく方を予めお決めください。時間になりましたらまた席の方にお戻りください。

Aグループ

討議メンバー

柴崎委員、石鍋委員、杉本委員、竹内委員、直江委員、佐野委員、倉橋委員

子育て支援課長、こども家庭支援センター所長、健康推進課長、就労支援課長、日本能率協会中村氏

(柴崎会長)

さきほど公園だとか親父の会の話、大まかなこれからの政策ができました。まず今日は、特にこれに関係した部分で話を進めていきたいと思います。

(谷口子ども施策推進担当係長)

父親のことについて、公園の環境整備のことについて、ご提案があればお願いします。

(柴崎会長)

まず、公園の部分です。安心して遊べる豊かな体験ができる場所の確保。それについて、どうぞ、ご意見ありましたらお願いします。

(谷口子ども施策推進担当係長)

今回、公園についてご意見をいただき、足立区こんなに公園があったんだと改めて気が付いたところ です。じゃぶじゃぶ池は、時期になりますと、いつも広報されますけど、それ以外にも出かける場所は いろいろあります。じゃぶじゃぶ池にはお子さんがたくさんいるけど、他の公園はどれくらいお子さん が遊んでいるのかなどは、実はわからないところです。

(柴崎会長)

さきほど、じゃぶじゃぶ池は7～8月の期間限定なのですね。利用期間は夏休み中心ですけど、平日 は学校があるので、たぶん就学前の子どもたち中心ですね。

(杉本委員)

区のプールだと何歳以上ではないとだめとか、親が一緒とかいろいろ制約があるんですけど、じゃぶ じゃぶ池も同じで、親が見るっていうのが条件みたいですよ。お母さん達は、水着じゃなくても、洋服を まくり上げて入ることができるそうです。やっぱり子どものことを考えて、時間制限で入る時間、休 憩時間っていうのを決めて、監視の方がいらっしゃるんです。私は綾瀬の子育てサロンにいますけど、交通公園の中のプールも夏だけ解放します。利用期間も、終わりが早いような気がします。

9月の間ぐらいまで利用できるといいと、お母さんたちはよくおっしゃるんです。でも、1才～3才 ぐらいの子には、水に入る時間っていうのがけっこう負担になるから、考えてあるのじゃないかな。ただ、 親も付き添うことができるのでとても好評みたいです。

(柴崎会長)

ここには子育てサロンが近くあって、利用できるわけですね。連動しているといいですね。

(竹内委員)

こども家庭支援センターの交通広場のプールは、すぐ隣に綾瀬こども文庫があり、交通公園で遊んだ あと、遊んだ親子が涼みにいけるようにきているんです。遊んだ後、お昼寝もできます。その文庫は 図書室みたいなきっちりした場所ではなく、床張りのところに座布団が何枚もあって、眠たい子はそこ で寝、親は子どもにどんな本を読んであげようかなと本を探したり。そういった、その場だけでなく、 その次の段階へ移動しやすいものがあるといいですね。それは、お互い働いている人たちや、利用して いる人たちの声で垣根が取れたと聞きました。

(直江委員)

夏場は疲れるし熱中症も心配だし、少し遊んだ後、そういう図書館とか休憩場があるといいですね。

(竹内委員)

そうですね。涼しいところがあるといいですね。

(柴崎会長)

たぶん今までは、点で作っているんですよ。すぐそばに関連する施設があっても、システムが違くと連動していかなかったんですよ。そういった意味で、どの単位の地域で考えればいいのかってということもありますけれども、地域に安心して遊んで、休めて、語ってというような視点のものが地図でうまくマッピングされて、しかも、それが気軽に利用できるような仕組みが欲しいですね。名称も欲しいですね。子育てサロンと同じような親しまれる名前があるといいですね。

(直江委員)

6月から観光交流委員になりまして、子育て中のお父さんや、学生さんや、お母さん達が委員になっているんですけど、みんな一致して足立区の一番いいところは公園が多いところって意見が出たんです。

意外だったのは、お父さん達がけっこう公園をあちこちフル活用していて、素敵なお父さん達がいっぱいいるんだなと思ったことです。さっき、このマップを見て、行ってみたいところがいくつもあったんですけど、お父さん達は、自転車に乗せて連れて行けるから、このマップがあればいろいろ動けると思うんです。

防災マップのように、このマップもなんらかの機会で、子育て家庭の人が手にできればいいのではと思います。母子手帳を渡す時に一緒に渡すなど、乳幼児、就学前家庭が手にする機会があればいいと思います。家にこれがあれば、お父さんも見る機会が出てくると思うし、今よりお父さんの外遊び、公園遊びが充実できると思う。

[村岡子育て支援課長]

今、会長からのお話で、他の施設とのつながりというのは、大変いいと思ったんですけど、この地図を見ていますと、やっぱり、公園、児童公園、じゃぶじゃぶ池の記載しかないんですね。ですから、子育てサロンの場所ですとか、保育園や幼稚園ですとか、そういう落とし込みがあると、これを見る方っていうのは、やっぱり小さいお子さん抱えたご家庭が多いと思うので、その辺が必要なんじゃないのかなと感じました。

(柴崎会長)

「子育てマップ」みたいな総合的なものがあるといいですね。これはなんか努力すればできそうですね。

(佐野委員)

土木部の中でも、今年度から「みどりと公園推進室」という形の組織ができました。公園をさらにPRしていくという立場になっていますから、子ども家庭部との連携でマップ作りみたいなのができればまたいいのかなって気もします。

(柴崎会長)

さきほど公園って話が出ましたが。実際、公園に行ってみると、小さい子は遊べないような公園だとか、お年寄りばかりいる公園だとか、どういうことができるか、という目的がわかりづらいですね。そういった意味では、どういう対象の子が利用可能かというのが、人目でわかるようなものがあるといいですね。幼児が過ごせる場所であるとか、小中学生がキャッチボールできる場所であるとかをマッピングすると、どういう年齢層の子ども達が安心して行ける場所かってことや、

またどういふ公園が少ないかとかがすぐわかりますよね。

(直江委員)

足立区でトイレが壊されたとかの記事が報道されると、足立区の公園は怖いと思ってしまう。区民は良さを知っているんだけど、これから足立区に転入する人たちにも安心感があるといいなと思いました。

(佐野委員)

足立区には、公園管理事務所が何箇所かあります。その職員が定期的にチェックをしていると思います。

(杉本委員)

私の住んでいる所の近くの公園は、シルバー人材センターの職員さんがまめに付近を掃除してくださっていて、とてもいいんです。この公園は、低学年用とかではなく、誰が使ってもいいんですけど、だいたい小さいお子さんの利用が多いですね。そのへんのことは住民の方は分かっていて、うまく使い分けができていたというのが現状ではないのかなという気がします。少し大きい子達は、ボール遊びがしたいですよね。でも、してはいけない公園がありますよね。させてあげたいなんて思うんですけど。公園は、誰が使ってもいい割にはあの年齢の子たちは使えないのかとか、そういう思いはありますね。

身近な公園では、うまく住民の方が使い分けして利用しているなって気がします。それぐらい公園が多いと思います。あと、区の施設でスタンプラリーがありましたよね。

(谷口子ども施策推進担当係長)

観光交流協会のですよね？全部ハンコをもらうと何かもらえるんですよね。博物館でボランティアをしているんですけど、スタンプラリーでお父さんと一緒に自転車でくる子どももいます。公園でもスタンプラリーみたいなものやったらいいかもしれませんね。ひとつの場所だけじゃなくて、違うところにも行ってみようっていう何かがあるといいかなと思います。

(村岡子育て支援課長)

前回、ディスカッションの中で、世田谷の羽根木公園のプレーパークみたいなものが足立区内にあるといいですねというお話を伺いまして、確かにそうだなと私も事務局も思いました。ただ、世田谷のプレーパークはけっこう規模が大きく、地域の住民の方々が参加しながら運営している、という歴史もあるということです。足立区を見てみますと、場所的にそれに適応できる所もそんなにないんですよね。足立区は、公園の面積から見ると、23区で一番広いということと、箇所数も恵まれているのであるならば、今ある資源、公園に目を向けて、子ども達が自由に体験したり遊べるような、そういうことを考えていってもいいのかなと思ひまして、今回、いろんな公園についてのご意見をいただこうかと思ったものです。

今、実際にじゃぶじゃぶ池は、小さい子どもたちにけっこう利用してもらってるんですけど、その他に、子どもたちが自由に工夫しながら遊べるような、体験できるような、そういう公園にするためにはどうしたらいいのか、そういった観点からご意見いただけると、と思っております。

(直江委員)

私の近所には梅田公園があるんですけども、この間、竹とんぼ大会の全国大会に出ているっていうおじいさんに竹とんぼを作ってもらったんです。公園を活用した、しょうぶ祭りなどの大きなイベントもいろいろあるんだけど、月に1回くらい、地域のそういう一芸に秀でたおじいさんとかが活躍できたりとか、人形劇などの催しとかがちょっとあると、負担にならず来られていいかなと思ったんですけど。

(竹内委員)

紙芝居って子どもが集まるし、ブームですよね。

(直江委員)

そうですね。公園でやると、図書館でやるのとはまた違っていいですね。

(村岡子育て支援課長)

昔は粘土を教えたりとか、そういうおじさんがいたもんですけどね。

(竹内委員)

その公園に行けばこういう人がいるっていう。そういう公園があるといいですね。場所だけじゃなくて、人が名物になるような。

(谷口子ども施策推進担当係長)

今度、区の方で「早寝早起き朝ごはん」というのを進めており、公園で遊びを教えるようなことを実施します。一部の公園で(日曜日の10時から1時まで)紙芝居や、ベーゴマや竹とんぼを教えたり、地域のボランティアの人とか、得意な人が先生になって、子どもたちを集めて実施する。そんな取り組みを始めようとしているところです。

それがもっと広がっていけば、ここの公園には何曜日の何時に行けばこんなおじさんがいて教えてくれるってことになれば、外遊びも充実し、遊び場の確保っていうのができるのかなと思います。

[石鍋委員]

幼稚園で、よく子どもたちを公園に連れて行きます。小さい公園もあるんですけど、よく行く公園は結構広くて、幼児が遊ぶにはとてもいいです。中には、草や蚊がいっぱいいるようなところもありますので、公園がもっと整備されているといいと思いました。

あと、トイレです。今、幼稚園でも家庭でも一般に洋式ですが、公園は和式があって、非常にトイレがさせにくいですね。

葛飾の公園もよく行くんですけども、動物がいたり、自然もあったり、施設が整っていて管理されていて、子ども達が遊ぶには非常にいいかなと思って、春と秋で年間10回くらい連れて行っています。足立区で、自然があって整備されている公園とったら、しょうぶ沼とか元淵江とか都市農業公園がありますね。しょうぶ沼ですと小川が流れていたり、滝の下をくぐったり子どもはとても喜ぶので、非常にいいかなと思います。自然があって花がきれいに咲いているというのは、こどもが遊ぶ環境にはとてもいいと思います。

小さい公園ですと、あんまり整備されていないような、ただ遊具だけ置いてあるような公園もありますし、木がいっぱいあるだけで草が生えていたりする公園もありますから入りにくいですし、もうちょっとなんかうまくいくといいですね。世田谷のプレーパークまでいかなくても、ある程度広さがあって、自然がちょっと整備されていたりすると、やっぱり人々が集うんじゃないかなと思います。

(柴崎会長)

公園っていろんな意味があると思うんですよ。体を動かす目的だとか、ゆっくり休めるとか、あるいは自然や生き物に触れ合えるだとか、そういう目的に合わせて、この公園がいいなっていうのがわかる方がいいという気がしますね。そういった意味ではじゃぶじゃぶ池なんか、水に親しめるって、目的がすごくわかりやすいですね。だから、年齢別にとかではなく、この公園だとかいうことが体験できるんですよっていうことがわかるといいですね。そして、やっぱりそれを特徴としていく方がいい。そうすると、例えば泥遊びしたいなっていった時には、土の山があってザリガニもいるこの公園に行こうとか、なんかそういうのがあるといいような気がします。

(杉本委員)

世田谷の羽根木プレーパークというところは、そこを利用するにあたっては約束があって、「ケガと弁当は自分持ち」ってということなんです。今、綾瀬の方で子ども達に遊びや体験をさせてあげようっていう団体があるんですけど、やっぱり子どもなのでケガの心配があって、ボランティアでやったけど、こどもがやった時のケガについてはどうしようかという場合がありますね。

ケガと食べるものは自分持ちなんだよっていうことをみんなが理解していてこそ、プレーパークのよなことができるんですよね。プレーパークは子どもがやりたいことを止めないです。自分でできるかどうか試すんだよっていうことで、危なそうだなと思ったら気をつけなさいっていう注意はするけれど、やめなさいとは言わないそうです。それで試してみてだめだったら、もうちょっとできるようになってからしようねとか、そういう指導はあるみたいです。だからやっぱり公園っていうと、そこでなんかあったら役所の方に文句を言うとかだけではなく、利用する側の心構えももっと欲しいなと思います。危険なことがいっぱいあるような公園ではないので、利用する側で、そういう公の場所を使う時にケガと弁当は自分持ちっていうような意識で使えるような、できるだけ利用者側の意識を喚起していかなければいけないかなと思います。

こんなに公園がいっぱいあるんだから、目的で使い分けるっていうのは大事です。ただ使い分けるといっても、何かあった時は誰かのせいではなく、見る親のせいであって、公のせいにするとかではない利用者の心構えと意識をもう少し高めていくことが必要だと思う。こんなにいっぱい公園があるのに宝の持ち腐れかなっていう気がしています。

(竹内委員)

安全面についての話が出たので、公園課の方がいらっしゃれば一番良いのかもしれないんですが、足立区の公園の安全性っていうものを、もしここで検討できるのであれば、遊具の再点検っていうのも必要なのではないのでしょうかと思いました。私の息子が、箱ブランコで骨折をしまして、そういった運動に関わったことがあるんです。「遊具を検討する会」というところで運動をやっていた時に、危険だっていうものについては、リスクとハザードという2種類のものがあり、自分たちが学習して1回ケガしても次は大丈夫っていうような危険であればそれがリスク、けどどうあってもこれは遊具に欠陥があったからケガをしてしまったという、そっちの方はハザードっていうんですけど、防げないものの中にはあるので、そういったところも、もし公園課の人と提携することがあるのであれば、見直し、再点検していただければと思うんですけども。

(直江委員)

お茶の水女子大の附属幼稚園を見に行ったんですが、子ども達が樹齢100年の木の皮をむいて、それをクッキーと言いながら遊んでいて感動したんです。公園の遊具も魅力的なんですけども、そういう自然物で遊べる、木をむいてもいいよとか草花を抜いてもいいよみたいなところもわかるといいですよね。、自然物を子どもが触ったりおままごとにしたりと、そういうこともできるような公園もあると、いいなと思いました。

(谷口子ども施策推進担当係長)

公園課の方と、頂いたご意見の方を協議してまいりたいと思います。有り難うございました。

(柴崎会長)

子育てでうまく公園が使えるようなそういう施策を考えていけばいいですよね。ありがとうございます。それではもうひとつの、父親の育児参加ですね。幼稚園に親父の会っていうのはどのくらいあるものなんですかね？

(石鍋委員)

幼稚園は親父の会はないんですけども、後援会っていうのはあります。何かの時にはわざわざお手伝いを頼んだり、そういう面では協力してくれます。特別なお父さんの会っていうのはないですね。

(柴崎会長)

地区によってそういう親父の会が結構さかんな地区と、そうでない地区がありまして足立区はあんまりないんですかね。

(佐野委員)

小学校はありますね。

(直江委員)

保育園では、父の日の行事について(母の日はするのですが)、母子家庭への配慮だということで今年から止めたそうです。母子家庭の配慮って言われてしまうと、親としてもお父さんのこともやって欲しいと言いつらい。こういう話し合いの場ではやろうとしているのであまり制限するのはどうかなとか思ったりもします。

(柴崎会長)

強制はできないですからね。いろんな家庭の事情もあるし。それから、仕事を持ってらっしゃる方も多いですしね。

やっぱりお父さんが子育てに参加する意識を持つと、親同士の喧嘩は減るんですよね。

(石鍋委員)

送迎は、一時期は母さんばかりでしたけど、随分お父さんの送迎が増えました。

(杉本委員)

子育てサロン綾瀬もほんとに土曜日は半数が男性の時もありますよ。土曜日に開いている施設が少ないからか、ほんとに午前中は男性の方が多い。お母さんが子どもと父親を外に出して家事をやっているとは思いますが。

(柴崎会長)

父親のかかわり方も、小さい頃のかかわり方と、大きくなってからはちょっと違うんですよね。大きくなってからしっかり係ってくれないと困るんですけど。そういった意味では、子育てをサポートするっていう立場にたっていただけると、本当はいいんですけどね。

(竹内委員)

ファミリーサポートをしている立場なんですけども、意外とお預かりしたお子さんを迎えに来る人がお父さんだったりするわけなんですよ。そういうお父さんって、子どもから話を聞くと、「うちのお父さんお料理上手なんだよ」、「お父さんの得意料理は卵焼き」とか、子どもがとてもシンプルな料理を喜んで話してくれるんですよね。こういった送り迎えと家の中の生活の最低限のことをやっても、お父さんはすごいっていうふうに子どもは思っていて、これをいい方向に、ほんの小さなことからなんですけれども、わざわざするのではなく、なんとかうまく持っていけるといいなと思うんですけどね。具体的なこととかは思い浮かばないんですけど。

(柴崎会長)

さきほどこの資料に父親の子育て事業がいくつか出ていますが「父親大学・講座」、「育児参加の機運を高める標語募集」、「ワークショップ」、親子で遊ぶのですね。「男性のための料理教室」。お父さんって、どういう目的かはっきりしないところにはやっぱり来たがらない。目的がはっきりしていると安心して来るという傾向があるのですね。例えば、「焼き芋教室」みたいに明確だったら、「焼き芋好きだし、じゃあ行こう」とかそういう感じはありますよね。

(谷口子ども施策推進担当係長)

竹ノ塚保健総合センターでは、お父さんたちのサークルができたと聞きます。お父さんたちも仲間を求めるというような機運があるのかなという気がします。

(柴崎会長)

それはありますよね。特に子どもが大きくなってくると、やっぱりお父さんの活躍している場面を見てもらいたいみたいなものがあるんですよね。例えば幼稚園なんかでも園によっては「ままごと小屋」って小屋みたいなものがありますよね。ああいうものを、募集してお父さんたちに任せて何ヶ月かかけて作ってもらっていうことをしているところありますよね。そうすると、好きなお父さんたちは一生懸命やってくれますもんね。そして、子どもはお父さんが作っている姿をだいたい土曜日なんかは見られます。

だからそういうふうに、もう少し地域のために力を発揮できるというのがあるといいのかな。小学校の校庭開放なんかで親父の会がずいぶん活躍しているんですよね。その乳幼児版でいい案はないかなって、そういう感じですけどね。

(杉本委員)

ずいぶん前なんですけども、郷土博物館で稲作をするイベントがあって、1年かかってから全部、もちろん刈り取りもやって、その後にお味噌を作るところまでやりました。泥の中に裸足で入ったことのないような子どもは大喜びです。3年で終わってしまったんですけど、遠くに行くので大変だったんですけど。一回きりじゃないので、次に行った時にはこんなに雑草が増えているとかも見ていく。幼児の子もいたんですけど、小学生ぐらいの子も多かったです。うちの息子はもう高校生だったんですけど、参加して良かったですね。ああいう共同作業をして、後でみんなで今日は大変だったねとか話をする。そういう世代を超えた話ができる場ってというのがとても良かったみたいです。自分より小さな子がやっているとか、並んで田植えすると遅いところに合わせてあげるとか、他を思いやれる共同作業だなってというのは、すごく高校生の息子にはいい経験になったみたいです。

都市農業公園があるんだから、あそこで農業体験でもやるといいと思う。

(柴崎会長)

絵本作家の『いわむらかずお』という人が、栃木的那須の方に住んでいるんですけど、その人が月一回ぐらい定期的に親子を呼んで、何か育てるイベントをやっていますね。子どももお父さんも結構いっぱい来るんですよね。その足立区版みたいなのできるならいいですね。

(杉本委員)

できるといいですね。お母さんよりもお父さんの方が積極的な参加でした。

(柴崎会長)

どちらかという、講座よりもこういうワークショップ系の方が来てくれるかもしれないですね。目黒区に「林試の森公園」というのがあるんです。そこで、『夜にカブトムシやいろいろな虫を探そう』というイベントを夏休みにやると、小さい子ども達がお父さんと集まりますよね。専門の指導員の方がいて、虫の取り方だとかいろいろ教えてくれながらやるんですけどね。お父さんも小さい頃に帰ったり、あるいは子どもの頃体験していないお父さんも体験できるっていうんですかね、そうして子どもと一緒に楽しめるみたいなのがいいですね。

(杉本委員)

子どもと一緒に体験して「こうだったね」って親子で話し合える話題づくりっていうのがあるといいですね。

(柴崎会長)

足立区にもまだ水田のできる場所があるだとか、カブトムシとか虫が来る森みたいなものがあるだとか、そういうもの、こちらが確かめていなければいけないですけど。それは公園課の方だったらわかるでしょうし。また、学校の先生なんかにはそういう専門の人もいますので、うまくタイアップすればいいかなと思います。

もう時間ですので。いろいろ知恵を出し合っていたいたんですけど、これで終わりにしたいと思います。

Bグループ

討議メンバー

中田委員、掛川委員、大野委員、石鍋委員、奥田委員、入野委員、日比谷委員

住区推進課長、教育政策課長、青少年センター所長、副参事（子ども施策推進担当）、

日本能率協会田中氏

(中田副部長)

それでは、今日はふたつの課題があるようですので、ご意見をいただきたいと思います。入野さん、今日のまとめを発表していただければありがたいと思います。ふたつの課題があったと思いますが、今日の資料の配布の中にありました、ひとつは公園の問題について、それからもうひとつは父親の子育てについて。ふたつに分けてまいりたいと思います。

(下河邊子ども施策推進担当副参事)

前回のグループディスカッションで、Aグループの方からご意見いただきました、「プレーパーク」と言って、世田谷に体験型の公園があります。普通の公園のように砂利できれいに整備されているような公園ではなく、土の感覚とか、あとは自分たちでやりたいことができる公園なんですけれども、すばらしいなというお話が出ました。足立区の公園は、わりときれいに整備されています。今、現状では、あまり子どもの姿が見られない公園などもあって、もちろん人気のある公園もあって、様々です。そういうところで、今、こどもたちに、もう少し体験をさせたいですとか、育ちの場ですとか、遊具の設定というところに視点を持っていただき、ご意見、頂戴できればと思っています。

(中田副部長)

まず、公園の課題からです。僕は18年前に教育委員をやってまして、公園の一番の問題は、砂場であると言ったことがありました。特に犬猫の糞の問題があったのですが、だいぶそれは解決されました。特にこれからの公園の中における衛生面だとか、両親と一緒にいった時にどうなのかなどのご意見をいただければありがたいと思います。

それと、このマップについても、知らない人が多いんですよね。これをもっと知らせるためには、例えば、学校配布をするとか、子育てサロンにも置くとか、そういうような形が必要なのかなと思いました。こういう良いものがあるのであれば、もっと知ることによってみんなの意見も変わってくるのではないかなと思います。奥田先生いかがでしょうか。公園について、父親として、またPTAの立場からどうなんだろうと、子育てにおいての関係があればお願いしたいと。

(奥田PTA連合会副会長)

そうですね、今、いろんな遊具が危険だということで、どんどん撤去が進んでいるみたいですけど、主に小学生以上の子どもたちは、むしろそんなに遊具がなくてもいいような感じがします。自由に遊べる場所がもっとあった方がいいように思います。足立区は公園の面積は都ではかなりあるといえますけど、ひとつひとつ見てみると、狭い公園、小さな公園が多くて、なかなか野球をやったり、ボール投げしたりできるところばかりではないと思います。なんとなく遊んでいる子ども達を目にすると、必ずしも遊具をたくさん置かなくてもいいような感じはします。ただ小さなお子さんに関してはまたちょっと話が違ふかなと思います。

(石鍋委員)

箱型のブランコとか、高い登り棒だとか、そういうものが周りの公園からどんどん撤去されてしまい、保育園でも、前はジャングルジムがあったんですけど、高さが危ないとかで撤去しようということ、なんにも遊ぶものがなくなってしまったんですね。それで、近所の公園にあるからと行ってみたら、

いつの間になくなっていています。遊具で遊ぶ経験を小さい頃からしていないので、年長さんになった時に鉄棒にぶら下がるという時にできない子が増えていて、転び方もすごくダイナミックに転んだりとか、遊びの場面を積み重ねられないので、返ってすごく危ないなという風に思います。

あと、ベビーカーのまま入り込めない公園がいっぱいあって、一回そこから降ろすことが意外と大変です。入り口が狭かったり、段差があったり、そのままベビーカーや車イスで入れない公園が意外と多いと思いました。

ベビーカーで入るお母さんが、一度降りてかついでとか、まだまだそういうところが多いかなと思います。また、駐車場も周りになかったり。マップにはいっぱい公園が出ているんですけど、私もほとんど行ったことがあるんですけど、パーキングがないので結局、素通りするということがありました。

うちは六町地域ですが、意外と、じゃぶじゃぶ池のようなみんなが集まれる公園が地域的に少なく、地域的に少ないところもあるかなと思います。北鹿浜公園など、車で行けて、中も結構広くて遊べるようなところはよく行くんですが、行きづらいところはやっぱり行かないと思います。水元公園のような、ダイナミックなアスレチックがあったり、広々遊べるようなところがいいですね。舎人公園がそれは少しあるかなと思うんですけど、アスレチックも少ないし、もう少し公園の中では遊べることもあるんじゃないかなと思います。

雲梯とか、登り棒とか、ああいう体力を使うような遊具がなくなっていると思います。馬みたいのにまたがるような、ほんとにケガをしないようなものはどの公園でもありますよね。

(中田副部長)

ありがとうございます。掛川さんいかがでしょう？

(掛川委員)

子どもが小さい時に、西新井の後ろの方に「たこ公園」というのがあって、今でもうちの娘達はたこ公園で遊んだ思い出があって、コンクリートでできた遊具があるんですけど、親にしてみたらコンクリート製だから、頭をぶついたら危険かなって思っていたんですが、けっこう子どもたちはうまく遊んでいるんです。そして今度、孫の時代には、公園はたくさんあるんですけど、遊具がどんどんなくなってきて、イスもだんだんなくなってきたり、おじいちゃん、おばあちゃんが孫を連れて行っても休めないってこともあって。

体験型の公園では、足立区ではなくて葛飾区にある公園なんですけど、小さい馬も乗れるし、ゴーカートも乗れるし、夏だと周りに大きい風船くらいの物体があって。ちゃんと信号もついていて車も通るのですが、そういうのが足立にあるといいと思います。

交通公園も、小さいお子さんしか入れないですよ。さっき奥田さんが言ったように小学生の高学年になって、男の子だったらバスケットとかサッカーとかをしたくてもできないですよ。土曜日曜はゲートボールの場所になってしまって、子どもたちは入れなくて、小学生の高学年になると遊び場がないので。けっきょく住区センターに行ってもそんなにボールで遊べないから、うちにこもっちゃうんだらうなって私は思いましたね。遊具っていうのは何が一般に？点検するんですか？

(下河辺副参事)

公園でちょっと遊具の事故があってからは、全部点検をして、A、B、Cという評価で、Cは撤去とか、Bは補修とかっていう形をとっています。

(掛川委員)

撤去しちゃったらそのままなんですか？

(下河辺副参事)

そのあとがどういう風になっているかっていうのは、公園課にちょっと聞いてみないとわからないんですが、撤去したままっていうところが多い。

(掛川委員)

公園はあるんですけど、遊園地的な遊ぶところだとか、体験型が足立区にはないような気がするんですけど。孫はじゃぶじゃぶ公園にみんな連れて行きましたけど。

(中田副部長)

公園の存在意義が漠然としていると思う。ひとつの例を言うと、西新井大師で遊んでいたが、私達が小さい頃はブランコ、滑り台、野草もあり、極端に言えば、犬の糞を踏んじゃったなんてこともあった。

ところが全部環境が整備されて、ここも入れないあそこも入れない。小さい時は木から落ちたことも思い出になっているが、今はそれが危ないっていう前提にたって何にもさせないような公園がだんだん増えてきちゃっている。だからさっき掛川さんが言ったように、思い出が残らない公園なんですよ。

どこに行っても同じ。逆にいえばそれぞれの公園によって違った特色作りがあって、あそこの公園に行けばこんな面白いのがあるよとか、ここに行けばあるよとかのオンリーワン公園がない。公園が一律的である。

バリアフリーの問題として、子ども達の来る遊び場に対しての、行政サービスが、僕は欠けているのかなって思います。今のご意見聞いてどうでしょうか。今のお話にご意見を。

(入野委員)

大人も子どもも忙しい状況になってしまっているんで、子ども会も弱体化したと感じます。一緒に行動を共にし、公園に遠足に行ったり、いろんなことをやりながら、地域を散策したりしていくことは、最近できなくなってしまったと思う。子供会がもう少し力をつけるとか、そういう企画を何回でもいいからやるとかっていうことで進めていくと、子供さんたちもまた公園を見直すのではないかなと思うのですね。私の近くには舎人公園があるので、じゃぶじゃぶ公園もありますし、すべてそろっていますから、行けば楽しく過ごせるわけですけど、なかなか一人では行けない。二人では行けない。やっぱり大人の皆さん方が面倒を見てあげられる、また子どもをほんとに大事に育てていこうという子供会が弱体化してきているのかなと。若い人達にお任せっていうのではなく、地域みんなでそういうことの企画をしていったら公園も見直されていくんじゃないのかなって思う。あれはだめ、これはだめというのではなく、そこに参加する参加させる、その良さをわからせてあげるっていう、このことが一番大事になってくるんじゃないかなと思うんです。(ガイドを見ると)ほんとにすばらしい公園がいっぱいあるわけですから、見直していただかなくちゃならないのかなっていうふうに思います。

(大野委員)

幼稚園の子ども達にはこういう公園はごくいいと思うんですけど。先ほど奥田さんもおっしゃったように、小学生が遊べる公園っていうのが少ないなと思う。自分の経験で考えてみると、あまり小学校の時って公園で遊んだ覚えがない。むしろ空地とか、家の前とか、神社とか、お寺とかそういうところで遊んでいたことが多い。公園に行っても、幼稚園の子どもとお母さんがいて、ちょっと煙たがられた。

逆に子どもに、いま自分達が遊んでいる場所っていうのを小学校でアンケートをとったらいいいのではないかな。実際に自分達が遊んでいる、例えば、駄菓子屋の前とか、コンビニの前とか、川の土手とか、いろいろあると思うんですけど。自分達の遊んでいる場所の遊び場マップみたいのを作らせて、それに強化するとか支援するということ、そんなのがあると面白いかなと思う。例えば、極論っていうかすごく大きいことをいうと、そのマップができた時点でそのエリアの部分を、例えば15時から21時は車を通行止めにするとか、迂回させるようにするとか。その子ども達が実際に遊んでいる場所を確保する。

公園にお金をかけるのもいいんですけど、自然に子ども達が遊んでる所が面白い場所だと思うので、そこを影で支援だとか、そういうことができるといいんじゃないかな。結構たいへんだと思うんですけど。

(中田副部会長)

開かれた学校作りの会長をやっていましたが、「8・3運動」の中で朝の8時と3時の子ども達の登下校を見守っているボランティアのお年寄りが、登録だけで66名いるんです。だいたいいつも25人ぐらい出てくるんです。例えば公園の中にもそういうシルバーボランティアじゃないけども、子どもや孫を面倒見てくれるような人達を、公園のひとつのガードナーのようなものも必要なかと今ちょっと感じたんですね。そこで石居さんからちょっと、お役所の人のご意見を聞かせていただけたらありがたいですね。

(石居教育政策課長)

羽根木のプレーパークっていう話がもともとでしょう。世田谷の方のプレーパークはずいぶん昔からありまして、こういった公園を作ってくださいっていうのが前からずっとある。ただ、下河辺副参事からお話しがありましたけども、羽根木には見守りの人がちゃんといるんですね。それこそ木の上にツリーハウスみたいのを作って、いろんなことができるような。子ども達がそこで、それこそ枯草とか枯葉とかもそのままなんですけど、いろんなことができるんですけども、ただそこがちゃんと見守りの人がいてそこで管理されてるっていう。それとだから今、遅ればせながらこのパークエンジェルっていう制度ができてくると、そういった可能性も出てくる。従来そのままですと、公園っていうのは先ほどからいろんなお話ございましたけども、幼児も遊びたい、小学生も遊びたい、中学生や高校生も遊びたい、なおかつ、お年よりも憩いたいたいというようなところですので、さきほどお話ありましたけど、それぞれのご要望を受けていくと、あれもだめこれもだとなる。それと遊具についても、それこそ安全点検という話しありましたけども、撤去もしているでしょうし、公園課の方でこういった遊具が最適なのかっていうこと考えているのですけど。それともっと根本的に言えば、遊具が無くては駄目なのかっていうようなですね。あとさきほど遊具については、それで体験しないからケガしちゃうんだっていうようなお話がある一方で、それがあからケガしちゃうんだっていう。公園はほんとに大変です。

ただ、昔と違って公園ぐらいしか遊ぶところなくなり、裏道もなくなり、その裏道も車が通る路地になると、公園は貴重な財産だとは思うんですけども有効に活用されているかっていうと、なかなか難しい。副部会長から話ありましたけれども、公園で不審者が出るっていうような話もございますので、地域の方々のお力を借りられれば、また違った展開が出来るかなと考えます。

(中田副部会長)

ありがとうございます。今、公園でモスキートのノイズをやっています。今から18年前に、公園の上にカメラ付けて回しとけばと言ったんです。(フィルムが入っても入ってなくても)。西新井警察の坂道を降りて来るとあそこにスピード違反の機械があるんですが、知っている人はそこで一回ブレーキを踏んでスピードを緩める。だからそういう擬似でもいいから、そういうものも必要なのかと思ったことなんです。続いて、永田さんどうぞ。ご意見を。

(永田住区推進課長)

公園の利用者は、本当に色々だと日常生活の中で感じております。午前中の早い時間は乳幼児を連れのお母さん達、午後は小学生、夕方ぐらいから中学生、高校生、日曜日は高齢者の方々など。当然、ニーズも異なります。だからといって画一的に作るというのは難しいんだろうなと思います。いろんな特徴を持った公園があちらこちらにあれば、それぞれ目的にあった利用ができるし楽しく遊べる。そうした工夫が必要だと思います。

(五十嵐青少年センター所長)

自分が子どもの頃公園で遊んだ記憶がなく、自分の娘ができ、公園につれていったのは小学校上がる前までだったような感じがします。公園だとボール遊びができないですけど、学校によってはボール遊びができます。「キッズぱれっと」の人気のひとつにもなって、時間帯にもよりますが、やっぱり放課後の時間っていうのは小学生はキッズぱれっとが中心になってくればいいなと思ってますし、今現在も今日で38校目の登録しましたので、期待はしております。

さきほど入野委員から子供会の弱体化っていう話が出ていましたけども、実際に弱体化しているのが実状で、子供自身は子ども会に入りたい、続けたいという意向がありながら、親が順番で回ってくる役員やるのがいやだから辞めさせちゃうとかの傾向があります。できるだけ協力を呼びかけ、子供会の支援は続けて行きたいというふうに思っております。

(下河辺副参事)

先週世田谷のプレーパークを見学してきたのですが、ほんとにあそこっていうのは約束がない、やっちゃいけないことがないっていうことで、火も焚けたり、お水も使いこんだりってことができるんです。ウォータースライダーみたいのをやっていたんですが、上から降りてきた子とぶつかっていました。「痛いんだよ」って言いながら、「上から確認して降りてこなきゃダメじゃないか」とかって言ってるんですけども、そういう痛い思いをして自分がどういうふうにやったらいいとか、痛い思いしてるんだから相手にはそういう思いをさせないとか、そういうことを考える力を育てていくうちに危機回避能力っていうのを身につけていくんだっていうのを本当に目の当たりにしてきました。さっき石居課長おっしゃったように、プレーリーダーがいて、30年間で死亡事故は0だということで。それでNPOのそういう機運が高まってきたのでそれを足立区にすぐに持ってこられるかというのは、なかなか難しいものがあると思います。

そういうパークエンジェルの方のボランティアの方がたくさんできてきて、それで見守りですとか充実していけるといいのかなと思いました。

(田中研究員)

今回、公園というテーマが出てきたのですが、この公園の整備っていうのは、今回、アンケート調査した中でも、安全で安心なところで遊べる場所っていう要望っていうのがかなり高い。先ほど出た、衛生面って問題もけっこう上がっているっていうのも事実です。ただ、公園を整備して欲しいという思いがある一方、公園の周りに住んでいる大人の方っていうのは、なかなか迷惑だって言う方もいらっしゃるって。子どもを育てていくっていう地域の目、地域の力ですか、そういったものがちょっと弱いのかなっていうことを感じております。昔公園で遊んでいた子どもに叱ったりする大人がいて、子どもはどんどん大きくなっていろんなことを学んでいくっていうのがあったんですけど、今はもう無視する、相手にしないとかいうのもありますし。公園自体がそういうボール遊びだとかそういったのを禁止しているっていう。そういったところもあって、公園っていうものがどんどん子どもから遠い存在になってしまっているのかと思う。公園では、他の大人とかとか高齢の方も遊ぶんですけども、例えばですけども、公園っていうのは子どもの遊び場なんだということをしっかり周りの大人がもう少し理解して、何かあったら周りの大人が子どもを助けるだとかそういうことをやっていくってことが必要なのになんていうふうに感じています。

プレーパークの話なんですけど、プレーパークのリーダーとかいうと、ある所では大学生をリーダーとして活用したりしています。実際の事例としてちょっとトラブルっていうかそういったのがありました。子供が汚れて帰って来るのを親が見て、それに文句を言いに行ったっていう事例がありました。プ

レーパークで遊ぶのは、自己責任で遊ぶのが前提になっていうのですけれども、そういうのをわかっていない過保護的な親がいますので、さきほどの公園のところとつながってくるんですけども、親の子育てに対する力っていうものをもう少し意識啓発をやっていく必要があるんじゃないかなと。

(中田副部長)

ありがとうございます。観光交流課では大学生を活用しています。奥の細道の事業の案内をするとかというのを観光交流課とNPOと共同でやっているんですが、そういう形の中でいくと公園においてもそうものが必要かなとひとつ感じたのと、

もうひとつは、公園は「公園と文化の連携」でもいいと18年前に言ったんです。それは、例えば舎人公園の中にミレイの絵を一枚作ってそれを子供たちはただで見せるなど（大人は有料）子供の教育にもなるのかななんて考えます。公園だけで遊ぶっていうだけでなく、そういうことも考えていく公園のあり方についての考え方っていうのはこれから必要なのかと考えるんですけど、石居さんどうですか？

(石居教育政策課長)

画一的な公園っていうのもあるんですけども、公園を作る場合、補助金の関係とかもいろんなこともあるんでしょうけど、今の財政状況からいくと可能なのか、区で検討するとなかなかその他の要望もたくさんあるからでというところでなかなかいろいろ難しい。

(中田副部長)

これから後半の父親の参加ということでいけば、まず奥田先生の方からPTAを代表してご意見があればお願いしたい。

(奥田委員)

親父の会を10年くらいやってきて、いろんなところの組織に入ってかかわってきたことがあります。さっきの子ども会と似たような問題があって、活動が活発になり、手伝ってみたり、役に就くと非常にいろいろ準備が大変で、だんだん入ってこないって人も逆に結構います。

それは例えば、幼稚園の父親の会やその会長さんとかが上手にやってくると、「その日しか来れないけど」という方でもどんどん入ってくれてくれるようになりこともあるかと思います。

小学校に関しては、（中学校にもありますけど）、PTAの中に親父の会があって活動しているところもありますし、予算をPTAからもらってやっているところもありますけど。まったく別に活動しているところもあります。予算なしで活動している所が多いと思うんですけど。ただなかなか大変かなと思います。

今日の資料にも親父の会の支援って書いてありますけど、できればPTAは、青少年センターに非常にご支援をいただいているところだと思いますが、親父の会に関しても全部ってわけにはいかないでしょうけど、区の方が一緒に入ってなんらかの具体的な支援をしてくださるといいんじゃないかなという感じもしています。PTAは小学校も中学校もきっちりやっていますが、親父の会っていうのは地域によってもばらばらの形態だと思うんでちょっと難しいんですが。

(大野委員)

この資料を見る限り、関係部署がいろいろあって、その連携っていうところがまず一番なんじゃないかなと思います。きっと今年のやっていることが結構いいことなのだと思うんですけど、これをお互い連携すればすごく倍増、施設が倍増する気がするんで、新しい施策というよりはこの中を繋ぐかところだと思います。

(中田副部長)

組織的にもですね。入野委員どうぞ。

（入野委員）

若い人との年寄りの会はあるんですが、やっぱり子供を中心にした親父の会、リーダーがしっかりしているところはがんばっていますが、なかなか難しい状況かなと思っているんですが。住区センターなんかもなかなか参加者が少ない状態ですね。

（中田副部長）

奇抜なことを申し上げますけど、日比谷さんとか石居さんとか足立区に住んでいるわけですよ。そういう役所の人間が親父の会を作って最初に動いたらみんな動くんじゃないかなと思う。足立区在住職員のお父さん達が親父の会を作りました、それで一生懸命こども達が応援しますって言ったら一般の人もついてくるだろう。それによって組織だってくることだって、今、大野さんが言ったような案だけど。青少年センターの五十嵐さんどうでしょうか？お考えは？

（五十嵐青少年センター所長）

親父の会は地域によって温度差は当然ありますけど、それを一緒に親父の会連合会を作ってやっていくっていうよりは、ゆるやかな集まりから始めたほうがいいかなと思っておりますけど。ただそうやって自主的に地域のほうでやってくれば、学校が多くなれば全体としては盛り上がりますよね。それはどんな方法で盛り上げればいいのかと。

（中田副部長）

今、親父の会の人たちも模索しているんじゃないかと思う。今、大野さんが言ったように、自分たちは自分たちでやっているだけだから、外のことがわからない。だから、連携するっていうのは情報交換とか、そういうものをひとつ考えていって、その中で相手のいいものを入れてくる、そして渡すという形でやっていかないと、今、みんな自分のところだけでやっているわけですよ。せめてグループごとでも交流ができるとか、情報交換ができるとか、そちらの方でなんかできないものかね？

（五十嵐青少年センター所長）

ゆるやかな報交換ができればと思います。

（日比谷委員）

前段の方で遊び場の話がでましたが、実は3週間前ぐらいに山梨大学のスポーツ医学の教授とお話しする機会があったんですが、やはり日本の子供が遊びこめてない、あるいは体力低下っていうのは学力問題以上に非常に大きな問題だっていうことを認識しないと、これから日本はやっていけなくなりますよ。そういう認識を持つことが大事だと思いますね。それこそ女の子が体力低下すると子育てすらできない、つまり赤ちゃんすら抱けないっていうような状況になると、人間がちゃんと成長しているかいつかるかっていう話になってしまうんです。小さい時に遊びこめる状況を作っていくっていうのは、非常に大事なことなんだということの認識を持たなくちゃならないのかな。特にあの先ほどから小学生の遊び場がないと言われました。うちの子が小学校時代に、「外行って遊べよ」と言ったんですが、「どこに行けばいいんだよ」と返されるわけです。結局、友達と遊ぶといっても、ゲームやカードゲームしかやってないわけですよ。キャッチボールをやれば道路だって危ないし、人の家に入り込んでいると注意されるそういう状況で。じゃあどこ行けばいいんだって言われましたよね。

だからそういう意味では、先ほどから中田副部長から発想の転換っていう話がありましたけど。いろんな機会でこども達が遊べる場所を作っていないとほんとに厳しいと思います。だからこれは公園だけの問題じゃなくて、道路だろうと、あるいは空き地を確保するとか、いろんな所でとにかく場所を提供していないと非常に厳しい問題だと思います。どういう中でやはり父親の役割っていうのは大事

だと思いますね。遊び込むことについて、母親より父親がどれだけ関われるかっていうところで。今の企業の状況からいうとそういうふうになかなかならないんでしょうけれども、そういったところからいかに父親を子育てに参加させやすいかってことを、これは雇用問題、ワークライフバランスの問題から、そういう大きな問題になりますけど。そういう機会を努めて作るような社会にしていかないと、これは学力問題以上の問題だというふうに思っております。

（中田副部会長）

ありがとうございました。「衣食住足らずとも国は滅びない、心が廃れたときに国が滅びる」って言うんですが、まさに心っていうのは教育だというふうにも思いますが、やはり今、国自体がなんだかわからないような状態の中で、一般の人が逆に苦勞し、こんなこと当たり前のようなことが天下国家ではわからない。逆に言うならば、ここにおいでになる日比谷部長を始めとして足立区の職員の方々が足立区から発信して、「東京の子育ては足立区だ」こういうふうに言われるように努力していただきたいというふうに思います。時間でございますので、終わります。ありがとうございました。

まとめ

(柴崎会長)

ありがとうございました。それではそれぞれのグループの主な意見についてのご報告をお願いいたします。1グループ5分以内でお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。それではAグループをお願いします。

(直江委員)

Aグループでは、まず公園についてです。じゃぶじゃぶ池は、4時まで、8月いっぱいまでなので、もう少し長くしてもいいのではないかという提案と、長時間いることはないので、子育てサロンと連動して、遊んだ後に休憩やお昼寝ができるなど、そういう連携した活動、地域との連動をもう少しやってみたらどうだろうかということでした。

さきほど配られた公園のマップにも、子育てサロンや保育所なども記載し、もう少し、子育て全体として分かりやすいようにしたらどうだろうかということと、内容面についても、マップだと遊具が中心ですけれども、ザリガニ釣りができるとか、花摘みができるとか、都会の中でも貴重な自然体験ができるんだよというようなことがわかる内容だと、よりいいのではないかということでした。

配布については、お父さんでも手に取るようなことがあるように、公園課と連携するなどし、もう少し配布を拡大したらどうだろうかということでした。

安全面については、遊具の再点検をしたり、それから、安全についての認識が、ある程度、保護者同士で共有できれば、羽根木プレーパークのようなことも、できるのではないかという話でした。あと、公園の課題としては、トイレが和式の所があったり、トイレがないところもあったり、ちょっと整備が不十分なところもありますし、そういう整備はもう少ししてほしいという意見が出ました。

公園のいろいろな楽しみ方、活用の仕方については、スタンプラリーをしたり、例えば、地域の人が、そこに遊びに来た子ども達に、竹とんぼやベーゴマ、粘土などの遊びを教えるなど、公園を場所としての魅力ではなく、人を活用したマンスリーな活動などもやってみたらどうだろうかということでした。

それから、お父さんについては、幼稚園や保育園では、保育参観などを盛んにやっているところもある一方で、母子家庭の配慮等もあるなど、うまくいっているところとうまくいっていないところもあるようでした。イベント等に出られるお父さんばかりではないので、イベントばかりでなくても、家庭での父親としての意識を高めるような工夫も図ったらいいのではないかということでした。

お父さん活動については、お父さんは、講座、イベント等で、何をさせられるかわからないようなものは苦手で、目的がはっきりしていると安心して参加できるので、目的をはっきりさせることと、どちらかといえば、講座よりもワークショップのように自分も体験できる方が、楽しく参加できるということなので、例えば、稲作体験や、カブトムシを取りに行こうみたいな、お父さんも子ども時代に返って楽しめるような体験を、企画したらどうでしょうかというお話しでした。以上です。

(柴崎会長)

ありがとうございました。では、Bグループをお願いいたします。

(入野委員)

公園の問題ですけれども、なかなか子ども達が中心になって遊びに行けないというような状態のところもあるようなので、子ども会をもう少し強化したらどうだろうかということと、こんなすばらしい公園がいっぱいあるので、もっと活用すべきではないかというお話がありました。施設がそれぞれ違う公園、すべての子ども達が喜ぶ内容ではないのかなという、公園は文化だというお話しもありましたけれども、もう少し見直しながら前向きにがんばっていけたらどうかということが出ました。

おやじの会の問題ですけれども、親父の会を作ろう！とあんまり強行に進めるといふより、ゆるやかに進めていったらいいのではないかということでした。特に情報交換をやったらどうかという、そういうお話もございました。ぜひひとつ、この親父の会もしっかりとお子さんを中心にがんばっていったらいいんじゃないかと。あと部長さんの方からのお話でございましたけれども、私も感心してしまったんですが、今、日本のこどもの体力が低下している、この子ども達が大人になったら子育てができないくらい弱ってきてるという、これは、遊びにほうけている子どもさんをどんどん作らなくちゃならないのではないかと、それには親子とともに遊びながら参加していくという、その親父の会の歩みがあるんじゃないだろうかなというお話しがございました。ほんとに私はそのことに感銘しまして、ほんとにこれから地域でそういうことの進めていきたいなと思っております。ありがとうございました。

（柴崎会長）

ありがとうございました。それではただいまのご報告につきまして、委員のみなさまから補足だとかご意見等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。それでは今日の A・B 部会の報告会を終わりにさせていただきます。どうもご協力ありがとうございました。それでは事務局から連絡お願いいたします。

（下河邊子ども施策推進担当副参事）

本日は、活発なご議論をありがとうございました。前回、今回とご議論していただきました内容につきましては、これから計画の策定にあたりまして庁内の委員会においても、十分検討させていただきたいと考えております。次回の子育て支援専門部会の開催につきましては、10月頃を予定をしております。またその時には、具体的な事業も記載した計画案をお示したいと思っておりますので、またよろしく願いいたします。

（谷口子ども施策推進担当係長）

本日、事務局のほうで作成いたしました、本日の会議録を議員の皆様へ送付させていただきたいと思っております。内容をご確認いただいて、誤りがございましたら事務局までご連絡くださいというふうをお願いいたします。またこの会議録につきましては、ホームページへの掲載等により、広く区民の皆様へ公開してまいりますので、ご了承願います。実は前回の5月の会議録を出席いただいた皆様の机の上におかせていただきました。大変遅くなりましたけれども、誤りがございましたら来週の7月9日ぐらいまでに、事務局の方にご連絡いただきますようお願いいたします。

（柴崎会長）

どうもご協力ありがとうございました。定刻通り終了することができました。これを持ちまして、本日の子育て支援専門部会を終了いたします。どうもご協力ありがとうございました。お疲れ様でした。